

飛鳥資料館 冬期企画展「飛鳥の考古学2020」

今回の展覧会では、飛鳥藤原地域の2019年度の発掘調査や遺物調査研究の最新の成果を紹介します。

飛鳥京跡苑池では、北側の池の北東部分が調査され、流水施設や階段状遺構など、水辺の祭祀遺構が新たにみつかりました。飛鳥寺の西側は、日本書紀に「飛鳥寺西槻下」として登場する広場にあたると考えられ、その推定地の飛鳥寺西方遺跡で2008年度からの10年間の発掘調査成果をまとめた報告書が刊行されました。藤原宮の大極殿院では大極殿の北で新たな回廊を発見しました。これにより大極殿院の構造に関する研究が新たな段階に入るとともに、造営過程についての研究も進んでいます。藤原宮の西2km付近に広がる藤原京右京五条周辺および四条遺跡・慈明寺遺跡では、藤原京期の宅地や建物跡、推定西八坊大路、さらに古墳や弥生時代の遺構などがみつかりました。

この冬は、発掘調査と最新研究があきらかにした飛鳥の新発見をぜひお楽しみください。

(飛鳥資料館 清野 陽一)

会 期：2021年1月22日(金)～3月14日(日) (ただし2月7日(日)は無料入館日)

開館時間：9:00～16:30(入館は16:00まで)／休館日：月曜日(月曜が休日の場合は翌平日)

ホームページ：<https://www.nabunken.go.jp/asuka/> お問い合わせ：☎0744-54-3561



飛鳥寺の西門地区の調査で
出土した土管

平城宮跡歴史公園第一次大極殿南門復原整備工事記念特別展

「鬼神乱舞ー護る・祓う・鬼瓦の世界ー」

屋根瓦のうち、神獣や恐ろしいオニの顔が付された「鬼瓦」はもっとも目立つ存在です。邪を祓い、その建物の無事を願って製作されたもので、その願いは古代から現代まで通じるものです。

今回、平城宮第一次大極殿院南門の復原を記念し、古代から近世にいたる鬼瓦の展覧会を開催します。飛鳥の寺院や藤原宮、平城宮と平城京の寺院の屋根で睨みをきかせていた鬼瓦たちにくわえ、1400年以上にわたって法灯を保ち、飛鳥時代から現代にいたる各時代の瓦がほぼ一貫して伝来する法隆寺の中近世の鬼瓦も一堂に揃います。飛鳥時代や奈良時代には中国や朝鮮半島から伝わった当時の最新技術を結集して製作されたものの、時代が下るにつれ徐々に日本独自のスタイルで発展を遂げていく様子がみられます。

屋根に上がってしまうとなかなか近くでみることのできない鬼瓦ですが、様々な鬼瓦と向かいあいながらその鬼瓦作りにかけられた情熱や願いに想いを馳せてみませんか。

(都城発掘調査部 岩戸 晶子)

主催：奈良文化財研究所／共催：国土交通省近畿地方整備局 国営飛鳥歴史公園事務所

会期：2021年1月23日(土)～3月28日(日)／場所：平城宮いざない館

開館時間：10:00～18:00(入館は17:30まで)／休館日：2月8日(月)

ホームページ：<https://www.heijo-park.go.jp> お問い合わせ：☎0742-36-8780(平城宮跡管理センター)



■ 記 録

文化財担当者研修

- 自然科学分析外注課程 9月24日～9月25日 10名
- 文化的景観調査計画課程 9月28日～10月2日 5名
- 保存科学I(金属製遺物)課程 10月13日～10月21日 8名
- 地質・考古調査課程 10月26日～10月30日 9名

平城宮跡資料館 秋期特別展

10月10日(土)～11月23日(月・祝) 14,670名
「地下の正倉院展-重要文化財 長屋王家木簡-」

飛鳥資料館

10月16日(金)～12月6日(日) 5,114名
第11回写真コンテスト「飛鳥の祭」

現地見学会

- 平城第625次発掘調査(興福寺鐘楼・東金堂院)

9月28日(月) 606名

○飛鳥藤原第205次発掘調査(藤原宮大極殿院)

11月7日(土) 480名

第12回東京講演会 オンデマンド配信

10月23日(金)～11月5日(木)

「奈良の都の暮らしぶりー平城京の生活誌ー」

第24回古代官衙・集落研究集会 リモート開催

12月12日(土)

「古代集落の構造と変遷」(古代集落を考える1)

編集 「奈文研ニュース」編集委員会

発行 奈良文化財研究所 <https://www.nabunken.go.jp>

Eメール koho_nabunken@nich.go.jp

発行年月 2020年12月